

梵珠だより

撮影：ミズバショウの道

エトピルク

●サンカヨウ

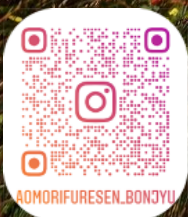
藤原 信夫（青森自然誌研究会）

●美しい小さなラン ネジバナ

長尾 千ヨ（津軽植物の会）

●エゾヨウメ（ヤマユガ科）

嶋海 麗美子（津軽昆虫同好会）





まだ若い果実
(2015年6月11日)



花を咲かせたサンカヨウ
(2020年5月12日)

サンカヨウの花にはどことなく清楚で、他とは

迎合しないような佇まいがある。それは、サンカヨウが生えている場所が、どちらかというと、やや湿った林床であることからくるのかも知れない。高山植物の部類に入れている植物図鑑や野生植物の案内書もあるが、青森県で暮らしている者からすると、そのような文章に、まさかと思ってしまう。きっと、山登りをしないと逢えない植物に含まれているからなのだろう。確かに、直径2cmほどの白い花を咲かせ、時には群生する様子は、山登りをする人々にとり印象強い。息を切らせながらも、ようやくやってきた林の中で、6枚の白い花びら、そして中央の雌しべを囲んで並ぶ6本の雄しべについている黄色い花粉。それらが、ひょっこりと挨拶をしているように見えてしまう。

初夏、梵珠山の観察路を歩いていると、どこかでサンカヨウの花に出会う。近くにはオクトリカブトが生えていそうな、湿り気のある林床である。梵珠山で最もよくサンカヨウに会えるのは寺屋敷広場の西側縁である。そこは、ふれあいセンターの職員による草刈りの場所にもなっているが、サンカヨウは対象種にならず、そっくり

残されるから安心だ。

ところで、長い間、白だった花びらがスクスク様になってくると花期の終わ리と思ってきたが、それは間違いで、花びらが濡れたときの變化だという。そして、そのような變化が、サンカヨウの特徴の一つでもあるという。それはつい最近知ったことで、そういえば、スクスクの花びらに出会うのは、雨が降っているとき、あるいは雨があがったときなどがほとんどだった。確か、スクスクでも、雄しべには花粉が見えていたことがあった。花期の終わりと判断は早とちりだったのだ。

花が終わり、実りの秋。その頃のサンカヨウにはまた大きな變化が訪れる。サンカヨウの果実は直径1〜1.5cmほどの楕円形状。果実の表面は濃い紫色で、粉を吹いているように見える。触ると柔らかく、ぷよぷよしている。口に含むと結構ジューシーで甘酸っぱい。今はやらないが、植物を覚えようとしていた頃は、味も植物を区別する大きな武器だと思いながら、いろんなものを口にしていた気がする。要するに、まずは植物を五感でとらえるのが基本だという立場だったが、それは、今でも変わらない

日本各地の日当たりのよい芝生や草地に生けないほどの美しさである。唇弁は白く半える多年草。地中に太くて白い多肉質の根がある。

6〜8月、高さ10〜30cm位の花穂でこの中になんと数万個もの種子がぎっしり詰まっている。

上部に小さな淡紅色の花が一つずつ並んでついている。その並び方は花の軸にらせん状にねじれている。ネジバナとはまったくそのものずばりの名である。

花穂のねじれは一定ではない。右巻・左巻があり巻く向きは左右ほぼ同じだという。ピッチも緩急さまざまで、同じ株から出る花穂の中にも右巻左巻が混じっているのがある。実にもいろいろ。

ひとつの花は5mmほどだがルーペで見ると洋ランの女王といわれるカトレアに負けて堂々と咲いている。



ネジバナ



シロモジズリ
(シロネジバナ)

和名は最初に北海道で発見されたので「エゾ」、4個の大きな眼状紋があるので「ヨツメ」と名づけられた。以前、春に「頭のカシワなどの広葉樹であることを知ったが、その時に何の葉を与えたかは記録していない。マユガ科に属する方だが、この仲間は年々少なくなった。」

回秋に出現する。そして大きい。この時期にこんな小さなヤマムユガの仲間を見たのは初めてだったので驚いた。これが「エゾヨツメ」であった。

メスですぐに産卵し、赤褐色でラグビーボールを押しつぶしたような形をしたつやつやした卵を産んだ。まもなく幼虫が孵化したが、この突起は成長するにつれて短くなり、終齢幼虫になるとすっかり無くなる。その後、知り合いからエゾヨツメの終齢幼虫の写真がメールで送られてきたことがあった。名前の問い合わせであったが、きれいな緑色をしていた。この時の幼虫には食草がはっきりしないまま様々な広葉樹の

葉を与えてみたが、どれも食べずに餓死してしまっただけだった。後に食草はハンノキ・ブナ・クリ・カシワなどの広葉樹であることを知ったが、その時に何の葉を与えたかは記録していない。マユガ科に属する方だが、この仲間は年々少なくなった。」

メスですぐに産卵し、赤褐色でラグビーボールを押しつぶしたような形をしたつやつやした卵を産んだ。まもなく幼虫が孵化したが、この突起は成長するにつれて短くなり、終齢幼虫になるとすっかり無くなる。その後、知り合いからエゾヨツメの終齢幼虫の写真がメールで送られてきたことがあった。名前の問い合わせであったが、きれいな緑色をしていた。この時の幼虫には食草がはっきりしないまま様々な広葉樹の



エゾヨツメ♀



エゾヨツメ
幼虫+卵

葉を与えてみたが、どれも食べずに餓死してしまっただけだった。後に食草はハンノキ・ブナ・クリ・カシワなどの広葉樹であることを知ったが、その時に何の葉を与えたかは記録していない。マユガ科に属する方だが、この仲間は年々少なくなった。」

食草がはっきりしないまま様々な広葉樹の

～イベントレポート～

- センター開設記念行事「黒森山登山」
7月5日(土)



- 夏休みスペシャル・クラフト体験
7月19日(土)～8月19日(金)

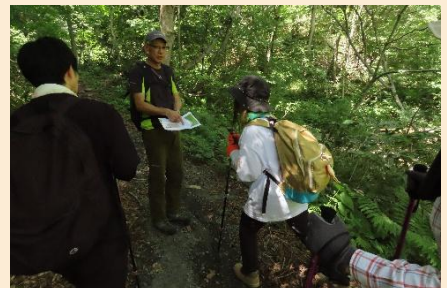


- 秋の梵珠トレッキング
～アカゲラの道から半沢ルートを巡る～
9月28日(日)

- 自然ふれあいファミリーデー
7月13日(土)



- 初級トレッキング教室 in 梵珠山
8月24日(金)



イメージキャラクター
梵太くん

～これから観察できるもの～ (前年度の観察記録参照)

	10月前半	10月後半	11月前半	11月後半	12月前半	12月後半
植物	アキグミ(実) ノコンギク	カエデ類紅葉 コマユミ(実)	ノコンギク チゴユリ(実)	ホツツジ(実) ムラサキシキブ(実)		
鳥類	エナガ トラツグミ	ニューナイスズメ ヤマシギ	アトリ ルリビタキ	キクイタダキ イカル	マヒワ エナガ	アオシギ クマタカ
その他	キヌガサタケ ブナノベニテングダケ	オオルリボシヤンマ フユシャクガ	オツネントンボ カメムシ類	梵珠山初冠雪	動物の雪上の足跡 カモシカ、リス、テン、キツネなど	